

学位論文要旨

児童英語教育教員養成課程において
大学生が理想とする小学校外国語授業についての
ビリーフとイメージの変容に関する質的研究

広島大学大学院教育学研究科

文化教育開発専攻

D131115 篠村 恭子

第1章 序論

第1節 研究の目的

本研究は、小学校での英語指導を想定した「児童英語教育法・指導法」という大学での講義を受講した学生が、1年間の受講を通してどのような学びを得たのかを質的分析を用いて明らかにすることを目的とする。

第2節 論文の構成（省略）

第2章 用語の定義と先行研究

第1節 用語の定義

本研究では、「教師がどのように知識を形成し、考え、指導するのか」(笹島・ボグ, 2009)という言語教師認知研究の枠組みを参考に、これまでに学校現場で教壇に立った経験のない教員養成課程の学生の理想の小学校での外国語授業についての「ビリーフ」や「イメージ」の変容を分析する。「ビリーフ」とは、「人がそれぞれもっている自分の経験に裏付けられた「学習」や「教育」に対する独自の信条のこと(中村, 2012)であり、「イメージ」は、教師のもつ「ビリーフ」の一側面を表現したものと考えることができるため(Calderhead & Robson, 1991)、本研究では、それぞれの学生が自身のもつビリーフに基づいて考える「理想の小学校での外国語授業の在り方」を「理想の授業」イメージとして分析することとした。

第2節 先行研究

言語教師認知の領域においては、教員養成課程での一定期間の縦断的な研究が求められていると言われている(笹島・ボグ, 2009)。これまでの研究から、学生は教員養成課程に入った時点で、教授や学習についての何らかのビリーフを既にもっており(Kagan, 1992; Pajares, 1992)、既に形成されたビリーフやイメージは教員養成課程の介入では変容しない(Larsen-Freeman, 2001)、また、教員養成が教師のビリーフに与える影響は弱い(Kagan, 1992, Richardson, 1996)とされてきた。一方で、個人の変容を詳細に見た研究では、養成課程の学生のビリーフやイメージが変容したという報告をしている研究もある(Tillema, 1998; Cabaroglu, 2000)。Tillema (1998)では、集団を対象としてビリーフの変容を見た場合には大きな変化が見られなくとも、個人について詳細に分析をした場合には、意図したものとは異なることもあるが、ビリーフは変化しているということを指摘し、個人の変容について詳細に分析していくことの必要性に言及している。

また、小学校での外国語指導者育成に関する大学での開講科目については、受講学生への質問紙調査などによる成果の検証(物井, 2012)や、講義の実態調査(内野, 2015)などが挙げられるが、小学校教員志望の学生個々人が実際にどのような学びを得たのかを詳細に分析した研究は見られない。そのため、学生の「理想の授業」イメージを縦断的に調査し、さらに振り返りの分析を通して学生の学びを質的に分析することは、教員養成段階にある学生の学びの変容を明らかにするために有効であると考えられる。

第3章 研究課題

本研究においては、以下の2点を研究課題として設定する。

【課題1】児童英語教員養成における大学生の理想の小学校外国語授業のビリーフとイメージはどのように変容するのか。

【課題2】児童英語教員養成における大学生は講義を通してどのような学びを得るのか。

第4章 「理想の授業」についてのビリーフとイメージの変容に関する調査

第1節 調査対象者

調査は、筆者の勤務していた私立大学で平成28年度に開講した「児童英語教育法（前期）」「児童英語指導法（後期）」を通年で受講していた大学3年生（19名）の内、小学校教員志望の8名を分析対象として抽出して行われた。抽出に際しては、1つ目の規準を「中学校英語科教員免許状の取得予定の有無」とし2群に分け、2群に分けた学生のうち自身の英語力に対する自信の高い学生（学生A～D）と低い学生（学生E～H）を取り上げて詳細に分析することとした。なお、調査に際しては受講学生全員に対して研究の趣旨を説明した上で、同意書による承諾を得ている。

表4-1 本研究における分析の対象とする学生

	自身の英語運用能力に対する 自信が高い	自身の英語運用能力に対する 自信が低い
中学校英語科教員免許状を 取得する	【第1群】 学生A（32/35点） 学生B（21/35点）	【第3群】 学生E（15/35点） 学生F（10/35点）
中学校英語科教員免許状を 取得しない	【第2群】 学生C（21/35点） 学生D（21/35点）	【第4群】 学生G（17/35点） 学生H（15/35点）

注：4技能5領域に加え、単語、文法についての7項目について5件法（1：自信がない～5：自信がある）で尋ねた。初等教育学科の学生の英語の各技能の自信の度合いの平均は19.4（SD=4.66）であった。

第2節 主要データとその収集方法

データ収集は、前期講義初回（2016年4月13日）～後期最終回（2017年1月25日）までの期間に行った。主なデータとその収集方法、実施時期については次のとおりである。

<主なデータとその収集方法・実施時期>

データ①【調査対象者の背景についての質問紙（以下、「学習履歴調査」）】

【実施時期】：前期第1回講義（2016年4月13日）で実施

データ②【小学校での外国語授業に関するビリーフについての調査（以下、「ビリーフ調査」）】

【実施時期】：調査は第1回の講義（2016年4月13日、調査①（受講前））、前期第15回の講義（2016年7月20日、以下、調査②（前期末））、初等教育学科の学生の教育実習後（学

生によって異なる，以下，調査③（実習後）と後期第 16 回の講義（2017 年 1 月 25 日，以下，調査④（後期末））の計 4 回実施。

データ③【理想の小学校での外国語授業のイメージ】についての調査（以下，「理想の授業」）】

【実施時期】：「ビリーフ調査」と同時に計 4 回実施。

データ④【講義後の振り返りレポート・1 年間の振り返りレポート】

【実施時期】：前期講義初回(2016 年 4 月 13 日)～後期第 16 回（2016 年 1 月 25 日）までの期間の毎回の講義の最後に実施した。

データ⑤【指導案作成課題】

【実施時期】：前期第 12 回（2016 年 6 月 29 日）～課題提出締切日（2016 年 8 月 10 日）

データ⑥【模擬授業と授業協議の実施とビデオ撮影による記録】

【実施時期】：後期第 3 回（2016 年 10 月 12 日）～後期第 15 回（2016 年 1 月 18 日）

【平成28年度前期の調査】

回 (実施日)	1 (4/13)	2 (4/20)	3 (4/27)	4 (5/11)	5 (5/18)	6 (5/25)	7 (6/1)	8 (6/4)	9 (6/8)	10 (6/15)	11 (6/22)	12 (6/29)	13 (7/6)	14 (7/13)	15 (7/20)
データ①	学習履歴調査														
データ②	理想の授業 (ビリーフ調査)														理想の授業 (ビリーフ調査)
データ③	講義後の振り返りレポート														
その他														指導案作成課題	
	調査① (受講前)														調査② (前期末)

【平成28年度後期の調査】

回 (実施日)	1 (9/24)	2 (10/5)	3 (10/12)	4 (10/19)	5 (10/26)	6 (11/2)	7 (11/9)	8 (11/16)	9 (11/30)	10 (12/3)	11 (12/7)	12 (12/14)	13 (12/21)	14 (1/11)	15 (1/18)	16 (1/25)	
データ②	理想の授業 (ビリーフ調査)																理想の授業 (ビリーフ調査)
データ③	講義後の振り返りレポート(第1～15回)・1年間の振り返りレポート(第16回)																
その他								模擬授業と授業協議の実施とビデオ撮影による記録									
																	調査④ (後期末)
																	調査③ (実習後)

図 4-1 平成 28 年度後期の調査について

第 3 節 講義の概要

「児童英語教育法」（前期・理論編）の講義（全 15 回）は 3 年次の学生を対象に開講し，「児童英語指導法」（後期・実践編）（全 15 回）と通年での履修を前提としている。

この授業は調査を行った大学が独自に発行している「児童英語教員養成課程修了証書（計 24 単位）」の内の必修 8 単位分（前後期各 4 単位）となっている。「児童英語教員養成課程修了証書」は卒業必修要件ではなく，希望した者が取得できる。1 回の講義は 2 コマ（90 分×2；計 180 分）で行った。

第 4 節 分析方法について

本研究で分析の対象とするデータは，8 名の抽出学生の「ビリーフ調査」（データ②）と「理想の授業」（データ③）の記述である。「ビリーフ調査」については，学生個々人の調査①（受講前）から調査④（後期末）までの計 4 回の回答の変化量を個別に見取り考察した。「理想の授業」については，「ビリーフ調査」と同様に計 4 回分の記述を各回ごとに SCAT（Steps for Coding and Theorization，以下，SCAT；大谷，2011）という質的分析の手法を用いて分析を行った。「学び」については，学生の毎時間の講義後

の振り返りレポートのうち、後期第 16 回講義後の 1 年間の振り返りレポート（データ④）での記述を KJ 法で分析した。

第 5 節 調査・分析者について

本研究の実施に当たっては、調査者は、「調査・分析を行う者」と「授業（講義）を行う者」としての 2 つの立場から対象となった学生に関わっている。

第 5 章 結果と考察

第 1 節 学生 A について（第 1 群（「中学校英語科教員免許状を取得する」「自身の英語運用能力に対する自信が高い」）

<ビリーフ調査>

学生 A は、外国語授業全体に関して、受講開始時点から英語や外国語授業の指導に関する肯定的なビリーフがあり、それらが年間を通じてそれが強化されたという特徴が見える。外国語授業に関する特別感など大きな変容が見られた項目については、学生 A 自身が年間を通して学級担任としての視点を得始めたことが影響していると考えられる。また、評価についてのビリーフと実際の行動には乖離が見られるなど、実際の経験の少なさが影響すると考えられる項目も見られた。

<「理想の授業」イメージ>

学生 A の「理想の授業」の記述は、年度当初の学習者としての自信の経験に基づいた記述から、講義等を経て得られた様々なテーマ（観点）に視点が広がっていった。これについては、学生 A が年間を通して学級担任としての視点をもちはじめたことが要因の 1 つであると考えられる。

第 2 節 学生 B について（第 1 群（「中学校英語科教員免許状を取得する」「自身の英語運用能力に対する自信が高い」）

<ビリーフ調査>

学生 B は年間を通して英語指導に対する困難さを感じている。一方で、指導についての知識や技能については、年間を通して肯定的なビリーフに変容した。このことより、知識や技能の習得の自己評価と、外国語指導に対する困難さのビリーフは必ずしも関連していないことも明らかになった。

<「理想の授業」イメージ>

学生 B は、受講開始当初は「理想の授業」についての記述の量自体が非常に少なく、具体的な授業のイメージなどをあまり持っていないようであったが、徐々に講義で扱った内容などを反映した具体的な記述の量が増え、指導者として授業を準備や実施したりすることをイメージした記述が増えたことが特徴的である。学生 B は、視点や観点の大きな広がりや変容は見られなかったものの、年間を通して視点の内容についての質的な変容が見られ、指導者としての視点や自覚に加えて、「子どもの学び」についての視点を得始めたと言える。

第3節 学生Cについて（第2群（「中学校英語科教員免許状を取得しない」「自身の英語運用能力に対する自信が高い」）

<ビリーフ調査>

学生Cは調査対象とした学生の中では最も高い英語の運用能力をもっているにも関わらず、自身の英語運用能力に対する自信の度合いは控えめであり、そのことが外国語授業に対する困難さを感じる一要因となっていると考えられる。年間を通して、教師には高い英語の運用能力が求められると同時に英語の運用能力以外に教師に求められる様々な役割についても理解が深まり、ALTとの連携や教材研究に加え、コミュニケーション能力や日頃からの児童との関わり方も重要であると考えようになった。

<「理想の授業」イメージ>

学生Cは、年間を通して「理想の授業」イメージについての視点自体に大きな変容は見られなかった。しかしながら、例えば「コミュニケーション活動」については「実際の使用場面を意識」という記述の様に authenticity（真正性）を意識した言及に変容したり、教材を扱う教師の授業力や、ALTとのTTに際しての事前打ち合わせの重要性への言及など、実際に教壇に立つ教師に求められることについてのイメージが具体化したりしたと言える。学生Cの「理想の授業」イメージは年間を通して観点が増えたり広がったりすることは無かったもののイメージが具体的になるなど、質的に変容したと言える。

第4節 学生Dについて（第2群（「中学校英語科教員免許状を取得しない」「自身の英語運用能力に対する自信が高い」）

<ビリーフ調査>

学生Dは外国語授業の指導についての知識や技能についての自己評価は「3:どちらでもない」という回答のまま変容しなかったが、困難さについてのビリーフについては、困難さを感じる度合いが低下した。学生Dは教師の英語使用に関しては肯定的なビリーフをもっているが、児童の英語使用についてはビリーフの回答が低下した項目も見られ、具体的なイメージを持っているのかどうかは不明なままであった。年間の振り返りの記述などからは、講義や模擬授業で取り上げられた具体的な指導方法についての言及が多く、実際の授業内の指導については関心が高いことが分かる。

<「理想の授業」イメージ>

学生Dの「理想の授業」で言及された観点は、年間を通して広がりはしなかったものの、その内容には大きな変容が見られた。調査①（受講前）で述べられていた「楽しさ」はアトラクションのような楽しさから、言葉を楽しむこと、そして最終的には「分かる」ことによる楽しさといった学びの本質に対する楽しさに変容した。徐々に児童の学びについての言及が見られるようになり、一人一人の児童の学びに焦点を当てる記述となった。指導者としての考えも、年度当初は自身も授業を楽しむことや個性を生かした授業を行うなどの指導者が中心の視点であったが、最終的には児童と教師が一緒になって授業を創るという考えに変容した。

第5節 学生Eについて（第3群（「中学校英語科教員免許状を取得する」「自身の英語運用能力に対する自信が低い」）

<ビリーフ調査>

学生Eは年間を通して外国語指導についての困難さを感じている。これは自身の英語の運用の力に対

する自信の度合いが低く、特に話すことに困難を感じていることが影響していると考えられる。また、知識や技能など、調査③（実習後）以降に低下した項目については、年間の受講、教育実習、模擬授業などを通して、学生 E 自身が自分の周辺の同級生などの他者から学ぶ姿勢を身につけ、「学び」に対する自身の姿勢が変化したという個人的な要因からであると考えられる。

<「理想の授業」イメージ>

学生 E は年間を通して、コミュニケーション（音声中心、話すこと重視）重視の授業について言及しており、このことは学生 E の core value であると考えられる。調査③（実習後）以降の記述からは、新たな観点が増え、視野が広がったことが伺える。このことは、学生 E 自身が「皆の良いところを吸収しようとする意欲が高まった」「改めてシェアリングの大切さを学びました」と述べていたように、他の学生からも学び合うという姿勢を身に付けたことによると考える。

第 6 節 学生 F について（第 3 群（「中学校英語科教員免許状を取得する」「自身の英語運用能力に対する自信が低い」）

<ビリーフ調査>

学生 F は年間を通して、外国語授業の指導についての知識や技能を得たと考えているが、外国語授業の指導に対する「困難さ」を感じたままとなった。しかしながら、この点に関する振り返りの記述を詳細に見ていくと、外国語授業についての授業観の変化に伴い、「難しさ」の質的な変容を読み取ることができ、指導についての知識や技能が身に付いたと考えているからこそ見えてきた外国語授業の指導についての困難さであると考えられることができる。

<「理想の授業」イメージ>

学生 F 自身は、「最初の頃は、外国語の授業は楽しければいいと思って」いたようであるが、その「楽しさ」はゲームや活動による活動の楽しさであった。しかしながら、教育実習での経験を経て、授業の本質でもある児童の学びや、明確なねらいの設定やそれを達成するための活動の設定が大切であることに気づき、後期の模擬授業を経験することで、その考えを深めることができるようになったと言える。学生 F の「理想の授業」についての視点は大きく広がることは無かったが、授業の本質に気づき、児童の学びを考慮した「理想の授業」へと、質的に大きな変容があったと言える。

第 7 節 学生 G について（第 4 群（「中学校英語科教員免許状を取得しない」「自身の英語運用能力に対する自信が低い」）

<ビリーフ調査>

学生 G は年間の講義を通して、外国語授業の指導についての知識や技能を獲得したと認識しているが、それにも拘わらず、指導に対する困難さは概ね変化しなかった。この点については、自身の英語運用能力に対する自信の低さが影響していると考えられる。

<「理想の授業」イメージ>

学生 G の年間の「理想の授業」の記述には、「楽しい」授業という言葉が継続して見られ、これは学生 G の core value であると考えられる。この「楽しい」は、年度当初は歌やゲームによる楽しさであったが、英語を用いたコミュニケーションの楽しさ、また、英語自体や異文化理解といった学習内容に対する知的好奇心の育成につながる「楽しさ」に質的に変容した。また、同時に授業内では子どもの思考力・

判断力・表現力の育成を目指した活動を設ける重要性についても言及が見られるようになった。これらのことから、学生 G は「子ども主体」「子どもの学び」中心に据えた授業の視点を得たと考えられる。

第 8 節 学生 H について（第 4 群（「中学校英語科教員免許状を取得しない」「自身の英語運用能力に対する自信が低い」）

<ビリーフ調査>

学生 H は年間の講義を通して、外国語授業の指導について年間を通して知識や技能を身に付けたと考えているが、調査②（前期末）を除いて、難しいというビリーフとなった。この点については、英語の運用能力に対する自信の度合いが大きく影響していると考えられる。また、「評価」についての項目など、一部で「3：どちらでもない」という回答のまま変容しなかったものや、年度当初は肯定的または否定的なビリーフをもっていたものが、最終的に「3：どちらでもない」となったものも見られ、これらはビリーフが形成されなかったり、または、「揺らぎ」の状態に陥っていると考えられる。

<「理想の授業」イメージ>

学生 H の「理想の授業」では年間を通して、「教師の英語力」についての言及があった。学生 H にとっては「理想の授業」を行うにあたって「教師の英語力」は重要なものとなっていると考えられる。年間の受講を通して、様々なことを学んだと自覚しているが、根幹にある学生 H 自身の英語に対する苦手意識は根強いようである。「理想の授業」の記述では、教師には高い英語力が求められると書いているものの、そのことが学生 H の英語に対する苦手意識の克服や外国語との関わり方に対して影響を与えるには至らなかった。

第 9 節 総合考察

第 1 節から第 8 節の 8 名の学生の考察を踏まえ、「ビリーフ調査」の各項目について、「理想の授業」の変容について、学生の 1 年間の「学び」について順に、総合的に考察を行った。

第 6 章 結論

第 1 節 研究課題に対する結論

【研究課題 1】 児童英語教員養成における大学生の理想の小学校外国語授業のビリーフとイメージはどのように変容するのか。

本研究の結果から、ビリーフの変容については、以下の 13 の特徴があることが明らかとなった。

<ビリーフの変容に関する特徴>

【特徴 1】 ビリーフの変容の個人差

【特徴 2】 ビリーフの変容の共通点

【特徴 3】 関連すると考えられたビリーフ間の関連性の有無や関連性の複雑さ

【特徴 4】 ビリーフの形成

【特徴 5】 ビリーフの「揺らぎ」

【特徴 6】 ビリーフと実際の行動との乖離

【特徴 7】 ビリーフが形成されない

<ビリーフの変容の要因に関する特徴>

【特徴 8】 変容の要因①：英語の運用能力に対する自信の度合い

【特徴 9】 変容の要因②：教育実習での経験の影響

【特徴 10】 変容の要因③：「学級担任としての視点」「子どもの学びの視点」の獲得

【特徴 11】 変容の要因④：模擬授業と協議会の影響

【特徴 12】 変容の要因⑤：実際の経験の不足の影響

【特徴 13】 変容の要因⑥：その他（ビリーフ変容に関わる要因の多様性と複雑さ）

次に「理想の授業」イメージの変容については、以下の 3 観点 7 項目の変容の特徴があることが明らかとなった。

【特徴 1】 視点の広がりや新たな視点の獲得（広がり）

- ① 外国語授業に関わる新たな視点の獲得
- ② 学級担任として児童や外国語授業に関わる指導者としての視点
- ③ 児童の実態や子どもの学びに関する視点

【特徴 2】 言及される視点の質的変容や具体化（深まり）

- ④ 言及される視点の質的変容
- ⑤ 言及される視点の具体化

【特徴 3】 変容しない視点

- ⑥ core value として変容しない
- ⑦ 変容の拒絶

【研究課題 2】 児童英語教員養成における大学生は講義を通してどのような学びを得るのか。

第 1 項で見たビリーフとイメージの変容に加え、その他に得られた「学び」については、以下の 3 観点 6 項目の「学び」があることが明らかとなった。

1. シラバスで明示した講義のねらいに関する学び
 - ・ 学習内容についての再認識
2. 振り返りを行ったことによる自身の成長についての気づきや成長したことで得られた更なる学び
 - ・ 自身の成長や変容についての学び
 - ・ 指導者としての視点の獲得による学び
 - ・ 学び続ける教師像の獲得
3. シラバスで明示した講義のねらい以外の付随的な学び：講義の授業形態や調査者による授業運営からの学び
 - ・ 学び合いやシェアリングの重要性についての学び
 - ・ 授業運営からの学び

第 2 節 本研究の意義と教育的示唆

本研究を通して、8名の学生の学びを詳細に分析することで、これまで明確ではなかった教員養成課程

に在籍する学生の学びの実態の一部を明らかにすることができた。

言語教師認知やビリーフ研究の分野においては、これまでに学生のビリーフの変容を縦断的、且つ、質的に見た先行研究が限られており、本研究から明らかとなった点は今後の言語教師認知やビリーフの研究における視点として活用できると考える。また、本研究の結果は、教員養成課程におけるカリキュラムや講義内容の改善にも資すると考える。

第3節 今後の課題

本研究によって、ビリーフやイメージの変容の特徴や要因、学びの特徴については明らかとなったが、一方で、これらの特徴間や要因間の関連性の有無や実態については十分に明らかとならなかったところもある。特に小学校で全科を教える担任教諭のビリーフの変容については、教員養成課程における他の科目に関する講義の影響も考慮するなど、教員養成課程全体や教員養成制度に関する視点を取り入れた分析も必須であると考えられる。

また、本研究は、大学3年次に在籍する学生を対象とした1年間の縦断的研究であったが、対象とした学生のその後や、教員採用試験を実際に受験して教員となっているのかは不明である。

【引用文献】

- Cabaroglu, N., & Roberts, J. (2000). Development in student teachers' pre-existing beliefs during a 1-year PGCE programme. *System*, 28(3), 387-402.
- Calderhead, J., & Robson, M. (1991). Images of teaching: student teachers' early conceptions of classroom practice. *Teaching and Teacher Education*, 7, 1-8.
- Kagan, D. (1992). Professional growth among preservice and beginning teachers. *Review of Educational Research*, 62(2), 129-169.
- Larsen-Freeman, D. (2001). Teaching grammar. In D. Celce-Murcia, & Heinle & Heinle (Eds.), *Teaching English as a second or foreign language* (pp. 251-266). Boston: MA.
- Pajares, M. F. (1992). Teachers' beliefs and educational research: Cleaning up a messy construct. *Review of Educational Research*, 62(3), 307-332.
- Richardson, V. (1996). The role of attitudes and beliefs in learning to teach. In J. Sikula (Ed.), *Handbook of research on teacher education* (pp.102-119). New York: MacMillan.
- Tillema, H. H. (1998). Stability and change in student teachers' beliefs about teaching. *Teachers and Teaching: Theory and Practice*, 4, 217-228.
- 内野駿介 (2015) 「教員を志望する学生は大学で何を学べるか：小学校外国語活動の指導に関する講義の実態調査」『JES Journal』第15巻, 83-94.
- 大谷尚 (2011) 「SCAT : Steps for Coding and Theorization—明示的で着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析方法—」『感性工学』, 第10巻, 第3号, 155-160.
- 笹島茂・サイモンボーグ (2009) 『言語教師認知の研究』東京：開拓社.
- 中村香恵子 (2012) 「小学校教師が抱く理想の外国語教師像：学習者信条・学習動機の影響」 *JACET Language Teacher Cognition Research Bulletin* 2012, 29-44.
- 物井尚子 (2012) 「「外国語活動」授業力向上のために大学が提供できる授業を考える-学生の質問紙調査から-」『千葉大学教育学部研究紀要』 第60巻, 97-103.

添付資料1：調査を行った講義の概要（シラバス）

表 4-3 平成 28 年度児童英語教育法（前期）講義の進め方

コマ	時間配分	内容
前半 (90分)	15分	クラスルームイングリッシュ復習・ミニテスト
	35分	クラスルームイングリッシュ演習
	40分	講義（表 4-3）
	10分	休憩
後半 (90分)	30分	アクティビティ・ワークショップ（表 4-3）
	45分	講義（表 4-3）
	15分	振り返りレポート作成

表 4-4 平成 28 年度児童英語教育法（前期）講義の概要（シラバス）

【講義のねらいと概要】		
<ul style="list-style-type: none"> 児童英語教育法（前期）は、児童英語指導法（後期）との通年での履修を前提とし、幼児期から児童期までの英語教育における理論や指導についての理解を深め、実際に授業を計画する力、授業を実践する力、教材を開発する力等を身につけることをねらいとする。 児童英語教育法（前期）では、児童英語教育に関する理論的背景を中心に講義を行うと同時に、児童英語教育で用いられる教授法やアクティビティを体験する。 児童英語指導法（後期）は、児童英語教育法（前期）に基づき模擬授業による演習を行い、実際に授業を行う力を育成する。 		
回	講義（〇はねらい）	アクティビティ・ワークショップ等（〇はねらい）
1 (4/13)	<ul style="list-style-type: none"> 〇講義のねらいと概要を知る。 〇Classroom English を習得する。 ・ガイダンス・自己紹介 ・Classroom English 演習 ・振り返りレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 【1分間スピーチ（自己紹介）】 〇teacher talk の特徴を理解し、それを活かした自己紹介ができる。 ・teacher talk の特徴を意識しながら、1分間の自己紹介スピーチと質問を行う。
2 (4/20)	<ul style="list-style-type: none"> 〇Classroom English を習得する。 〇世界や日本での外国語教育の意義や、学習指導要領における外国語教育の目標等を理解する。 ・Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習 ・講義：世界の言語・英語を学ぶ意義・小学校外国語活動の目的・目標・導入の経緯・英語教育における役割 ・振り返りレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 【名刺交換のアクティビティ】 〇小学校で良く行われるアクティビティについて知り、指導する際の留意点を理解する。 〇指導する際の留意点を理解する。 ・教室内を歩き、英語であいさつ・自己紹介をして名刺を交換する。実際に指導をする際に留意する点を考え、討論する。
3 (4/27)	<ul style="list-style-type: none"> 〇Classroom English を習得する。 〇今後の日本での外国語教育の動向について理解する。 〇関連分野（言語習得）について理解する。 ・Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習 ・講義：今後の英語教育の動向についての補足・母語習得と第二言語習得論 ・振り返りレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 【歌の活用】 〇小学校で良く用いられる英語の歌について知り、歌を活用する意義や活用（応用）方法について理解を深める。 〇指導する際の留意点を理解する。 ・Head, shoulders, knees and toes などの良く用いられる歌の紹介。 Hello Song を活用しながら表現に慣れ親しみ、ペアを見つけてあいさつ・気分を尋ねる。歌の活用の意義について考える。
4 (5/11)	<ul style="list-style-type: none"> 〇Classroom English を習得する。 〇関連分野（発達心理学/学習者要因）について理解する。 ・Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習 ・講義：発達心理学と学習者要因 ・振り返りレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 【デジタル教科書の活用】 〇デジタル教科書の特徴を知り、活用方法について理解を深める。 ・Hi, friends! のデジタル教科書のコンテンツを体験する。 【How many apples?の活動と応用】 〇教科書（副読本）でよく用いられる活動の特徴を知り、その意義や活用（応用）方法について理解を深める。 ・Hi, friends! のアクティビティを体験し、応用を考える。
5 (5/18)	<ul style="list-style-type: none"> 〇Classroom English を習得する。 〇関連分野（コミュニケーション能力/国際理解教育）について理解する。 ・Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習 ・講義：コミュニケーション能力・国際理解教育 ・振り返りレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 【チャンツづくり】 〇小学校で良く用いられる活動について知り、その意義や活用（応用）方法について理解を深める。 〇指導する際の留意点を理解する。 ・「バナナじゃなくて banana!」のチャンツを参考にグループで外来語（カタカナ英語）と英語の違いに焦点を当てたチャンツを作成し発表する。
6 (5/25)	<ul style="list-style-type: none"> 〇Classroom English を習得する。 〇教師に求められる資質能力について理解を深める。 〇指導形態の特徴や ALT の効果的な活用について理解する。 ・Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習 ・講義：教師に求められる資質や能力・指導形態・ALT の活用 ・振り返りレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 【キーワードゲーム】 〇小学校でよく用いられる活動の特徴を知り、その意義や活用（応用）方法について理解を深める。 〇指導する際の留意点を理解する。 ・キーワードゲームを体験する。単語に加えてフレーズ・文・Q&A などの応用版も体験し、留意点や工夫する点を考える。

7 (6/1)	<p>○Classroom English を習得する。</p> <p>○教材, シラバスの種類や特徴について知り, Hi, friends!の特徴について理解する。</p> <p>・ Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習</p> <p>・ 講義: 教材・テキストの構成 (シラバス) と内容・Hi, friends!の分析とレポート作成</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	<p>【スリーヒントクイズ】</p> <p>○小学校でよく用いられる活動の特徴を知り, その意義や活用 (応用) 方法について理解を深める。</p> <p>○指導する際の留意点を理解する。</p> <p>・スリーヒントクイズを体験し, 実際にミニクイズ大会を行う。ヒントの出し方や指導の留意点を考えて共有する。</p>
8 (6/4)	<p>○Classroom English を習得する。</p> <p>○年間指導計画の立て方について理解する。</p> <p>・ Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習</p> <p>・ 講義: 年間指導計画の立て方</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	<p>【Simon Says・TPR】</p> <p>○TPR (Total Physical Response; 全身反応教授法, 以下 TPR) など, 小学校でよく用いられる活動手法の特徴を知り, その意義や活用 (応用) 方法について理解を深める。</p> <p>・ Simon Says や TPR を用いた活動を体験する。</p> <p>【ブレキン英語視聴】</p> <p>○小学校で活動用可能な視聴覚教材について知り, その意義や活用 (応用) 方法について理解を深める。</p> <p>・ 小学校での外国語授業で活用可能な視聴覚教材の例として, ブレキン英語を視聴し感想を共有する。</p>
9 (6/8)	<p>○Classroom English を習得する。</p> <p>○外国語授業で用いられる様々な指導法について知り, その特徴を理解する。</p> <p>・ Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習</p> <p>・ 講義: 指導法</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	<p>【英検 Jr.体験】</p> <p>○小学校での外国語指導を想定した民間試験を体験し, その特徴を知り, 授業内での活用の可能性や方法について理解を深める。</p> <p>・ 小学生を対象とした英語の試験の特徴を知り, 実際のウェブサンプルを体験する。</p>
10 (6/15)	<p>○Classroom English を習得する。</p> <p>○外国語授業の単元や 1 時間の授業構成について知り, 作成する (第 12 回以降での指導案作成) ことができる。</p> <p>・ Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習</p> <p>・ 講義: 1 時間の授業過程と学習指導案の作成の仕方</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	<p>【タスク活動】</p> <p>○タスク活動の特徴を知り, その意義や活用 (応用) 方法について理解を深める。</p> <p>・ 大学生向けトピックで, 学生の日常生活について調査し, グラフにまとめ発表する。小学校での応用について考える。</p>
11 (6/22)	<p>○Classroom English を習得する。</p> <p>○外国語教育における評価について理解し, 評価場面を設定 (第 12 回以降での指導案作成) することができる。</p> <p>・ Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習</p> <p>・ 講義: 外国語教育における評価の在り方と具体例</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	
12 (6/29)	<p>○Classroom English を習得する。</p> <p>○外国語教育における評価について理解し, 評価場面を設定 (指導案作成) することができる。</p> <p>○学習指導案の書き方を理解し, 実際に作成することができる。</p> <p>・ Classroom English 復習・ミニテスト・Classroom English 演習</p> <p>・ 講義: 今後の外国語活動の動向の補足・Can-Do リストの活用</p> <p>・ 指導案作成演習 (指導案の書き方)</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	
13 (7/6)	<p>○学習指導案の書き方を理解し, 実際に作成することができる。</p> <p>・ 指導案作成演習 (グループ・個人)</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	<p>【指導案作成課題】</p> <p>○実際に小学校で学級担任として授業を行うことを想定し, グループで単元計画を作成することができる。</p> <p>○1 時間の学習指導案 (細案, 評価場面も含める) と使用する教材を作成することができる。</p> <p>・ 3~4 人のグループで 1 単元の指導案を作成。</p> <p>・ 1 人 1 時間 (45 分) の本時案を担当する。</p> <p>・ 最低 1 回はメール (添付で送付。Microsoft Word の校閲機能による) での添削を受けて修正したものを提出。</p> <p>・ 作成したものに基づいて後期に模擬授業を実施。</p>
14 (7/13)	<p>○学習指導案の書き方を理解し, 実際に作成することができる。</p> <p>・ 指導案作成演習 (グループ・個人)</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	
15 (7/20)	<p>○学習指導案の書き方を理解し, 実際に作成することができる。</p> <p>・ 指導案作成演習 (グループ・個人)</p> <p>・ 前期のまとめ</p> <p>・ 振り返りレポート作成</p>	

表 4-5 平成 28 年度児童英語指導法（後期）模擬授業実施日の授業の進め方

コマ	時間配分	内容
前半 (85分)	45分	模擬授業（1）
	5分	模擬授業（1）のまとめ/協議の準備
	5分	授業者自評（ねらいの達成度・手立て・活動の意図など）
	20分	質疑・意見・協議
	10分	教員からのコメント
	10分	休憩
前半 (95分)	45分	模擬授業（2）
	5分	模擬授業（2）のまとめ/協議の準備
	5分	授業者自評（ねらいの達成度・手立て・活動の意図など）
	20分	質疑・意見・協議
	10分	教員からのコメント
	10分	振り返りレポート作成

表 4-6 平成 28 年度児童英語指導法（後期）講義の概要（シラバス）

【講義のねらいと概要】		
<ul style="list-style-type: none"> 児童英語指導法（後期）は、児童英語教育法（前期）との通年での履修を前提とし、幼児期から児童期までの英語教育における理論や指導についての理解を深め、実際に授業を計画する力、授業を実践する力、教材を開発する力等を身につけることをねらいとする。 児童英語教育法（前期）では、児童英語教育に関する理論的背景を中心に講義を行うと同時に、児童英語教育で用いられる教授法やアクティビティを体験する。 児童英語指導法（後期）は、児童英語教育法（前期）に基づき模擬授業による演習を行い、実際に授業を行う力を育成する。 		
回	講義の概要	具体的な内容・題材
1 (9/24)	○学級担任による実際の授業（1 単元）を視聴し、単元を通した指導の実際について理解を深める。 ・授業ビデオ視聴①（外国語活動） ・ディスカッション ・振り返りレポート作成	・文部科学省(2012)『小学校版 新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料 2』第 5 学年“Hi, friends! 1”Lesson 4 I like apples. の視聴とディスカッション（詳細は添付資料）
2 (10/5)	○学級担任と ALT による実際の授業（1 単元）を視聴し、単元を通した指導の実際について理解を深める。 ・授業ビデオ視聴②（外国語活動） ・ディスカッション ・振り返りレポート作成	・文部科学省(2012)『小学校版 新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料 2』第 6 学年“Hi, friends! 2”Lesson 3 I can swim. の視聴とディスカッション（詳細は添付資料）
3 (10/12)	○（前期に作成した）学習指導案に基づき、実際に 1 時間（45 分）の外国語活動の授業を実践することができる。 ○協議会を通して、模擬授業の改善点などを考え、より良い授業実践への視点を得る。 ・学生による模擬授業①（学生 D） ・学生による模擬授業② ・振り返りレポート作成	〈前半〉模擬授業① Hi, friends!1 Lesson9 (2/4 時貫目) 〈後半〉模擬授業② Hi, friends!1 Lesson9 (3/4 時間目)
4 (10/19)	○（第 3 回講義と同様） ○授業観察のための視点や効果的な授業記録の方法について理解を深める。 ・学生による模擬授業③ ・授業記録の取り方について ・振り返りレポート作成	〈前半〉模擬授業③ Hi, friends!1 Lesson9 (4/4 時間目) 〈後半〉授業記録の取り方について、良い方法を模索するため、これまでのメモや自分のやり方をシェアリング。
5 (10/26)	○（第 3 回講義と同様） ・学生による模擬授業④（学生 H） ・学生による模擬授業⑤（学生 E） ・振り返りレポート作成	〈前半〉模擬授業④ Hi, friends!1 Lesson5 (1/4 時貫目) 〈後半〉模擬授業⑤ Hi, friends!1 Lesson5 (2/4 時間目)
6 (11/2)	○（第 3 回講義と同様） ・学生による模擬授業⑥ ・学生による模擬授業⑦（学生 G） ・振り返りレポート作成	〈前半〉模擬授業⑥ Hi, friends!1 Lesson5 (3/4 時貫目) 〈後半〉模擬授業⑦ Hi, friends!1 Lesson5 (4/4 時間目)
7 (11/9)	○（第 3 回講義と同様） ・学生による模擬授業⑧（学生 A） ・学生による模擬授業⑨（学生 C） ・振り返りレポート作成	〈前半〉模擬授業⑧ Hi, friends!2 Lesson2 (1/4 時貫目) 〈後半〉模擬授業⑨ Hi, friends!2 Lesson2 (2/4 時間目)
8 (11/16)	○（第 3 回講義と同様） ・学生による模擬授業⑩ ・学生による模擬授業⑪ ・振り返りレポート作成	〈前半〉模擬授業⑩ Hi, friends!2 Lesson2 (3/4 時貫目) 〈後半〉模擬授業⑪ Hi, friends!2 Lesson2 (4/4 時間目)
9	○（第 3 回講義と同様）	〈前半〉模擬授業⑫ Hi, friends!2 Lesson5 (1/4 時貫目)

(11/30)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による模擬授業⑫ ・学生による模擬授業⑬ ・振り返りレポート作成 	〈後半〉 模擬授業⑬ Hi, friends!2 Lesson5 (2/4 時間目)
10 (12/3)	<p>○外国語活動以外の位置づけでの小学校での様々な外国語授業の取り組みについてその特徴を知る。</p> <p>○文字を扱う活動を体験し、指導における留意点について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ビデオ視聴③ (様々な取組) ・文字に関するアクティビティ ・振り返りレポート作成 	<p>〈前半〉 シンガポール日本人学校での英語授業の様子・低学年から教科として英語授業を実施する学校の授業の様子・CLIL を取り入れた授業実践・中学年での文字指導の様子など、様々な位置づけで英語授業を実施する学校の実践を少しずつ視聴した。</p> <p>〈後半〉 ABC ソングの活用・点つなぎやワードサーチなどのワークシートを用いた活動、フォニックスの活用を体験した。</p>
11 (12/7)	<p>○ (第3回講義と同様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による模擬授業⑭ (学生 F) ・学生による模擬授業⑮ (学生 B) ・振り返りレポート作成 	<p>〈前半〉 模擬授業⑭ Hi, friends!2 Lesson5 (3/4 時貫目)</p> <p>〈後半〉 模擬授業⑮ Hi, friends!2 Lesson5 (4/4 時間目)</p>
12 (12/14)	<p>○ (第3回講義と同様)</p> <p>○小学校での絵本の活用方法や留意点について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による模擬授業⑯ ・英語の絵本の選び方と紹介 ・振り返りレポート作成 	<p>〈前半〉 模擬授業⑯ Hi, friends!2 Lesson8 (2/4 時貫目)</p> <p>*急な欠席のため、1/4 時間目は後日に変更</p> <p>〈後半〉 絵本の読み聞かせに向けて、読み聞かせの意義や選書のポイント等を説明し、良く活用される絵本を紹介した。</p>
13 (12/21)	<p>○ (第3回講義と同様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による模擬授業⑰ ・学生による模擬授業⑱ ・振り返りレポート作成 	<p>〈前半〉 模擬授業⑰ Hi, friends!2 Lesson8 (3/4 時貫目)</p> <p>〈後半〉 模擬授業⑱ Hi, friends!2 Lesson8 (4/4 時間目)</p>
14 (1/11)	<p>○ (第3回講義と同様)</p> <p>○絵本の読み聞かせ (事後活動も含む) を実践することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による模擬授業⑲ ・絵本の読み聞かせ発表会① ・振り返りレポート作成 	<p>〈前半〉 模擬授業⑲ Hi, friends!2 Lesson8 (1/4 時貫目)</p> <p>〈後半〉 絵本の読み聞かせ発表会①</p>
15 (1/18)	<p>○ (第3回講義と同様)</p> <p>○絵本の読み聞かせ (事後活動も含む) を実践することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による模擬授業⑳ ・絵本の読み聞かせ発表会② ・振り返りレポート作成 	<p>〈前半〉 模擬授業⑳ Hi, friends!1 Lesson9 (1/4 時貫目)</p> <p>*後期から履修した学生のため、最後に追加した。</p> <p>〈後半〉 絵本の読み聞かせ発表会②</p>
16 (1/25)	<p>○次期学習指導要領の改訂について知る。</p> <p>○1年間の「学び」について振り返り、自身の成長に気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめ (1コマ: 90分のみ実施した。詳細は右欄。) 	<p><15分> 次期学習指導要領改訂に向けての情報提供</p> <p><15分> これまでの学び (ファイリングしたプリントや振り返りレポート) を振り返る</p> <p><15分> 「理想の授業」をまとめる</p> <p><15分> 「理想の授業」について小グループでシェアリング</p> <p><30分> 1年間を通して学んだこと・自分の成長を振り返りシートにまとめる (提出後、退出可とした)</p>

添付資料2：調査対象者への学習履歴調査

【Background：これまでの英語学習に関する自分の学習履歴を振り返りましょう。】

① 英語技能や学習履歴について記入してください。

年齢		TOEIC スコア	点
学年	年	TOEFL スコア	点
留学経験	有 ・ 無	英検	級
留学した国・地域		その他の 英語技能試験 (あれば記入)	
留学期間	年 ヶ月		
英語学習歴	年 ヶ月		
教員採用試験を受ける予定		受ける ・ 受けない ・ 未定	

【各技能の自信の度合い】 当てはまる数字に○を付けましょう。

	自信がない どちらかと言えば自信がない どちらでもない どちらかと言えば自信がある 自信がある
読むこと	1 2 3 4 5
書くこと	1 2 3 4 5
聞くこと	1 2 3 4 5
話すこと（発表） (スピーチなど、1人での発話)	1 2 3 4 5
話すこと（やりとり） (会話やディスカッションなど2名以上の発話)	1 2 3 4 5
単語	1 2 3 4 5
文法	1 2 3 4 5

② 自分自身が小学生の時に学校で「外国語・英語活動」など、何らかの英語に関する授業がありましたか。

あった ・ なかった ・ 覚えていない

⇒ 「あった」と答えた人は、なるべく具体的にどのような授業であったか記入してください。

- 学 年：1・2・3・4・5・6年生（当てはまる学年全てに○をつける）
- 頻 度：月・週・年に（ ）回程度（その他： ）
- 指導者：担任・小学校の英語の先生・担任と **ALT**・（その他： ）
- 内 容：

③ 現在までに大学などで子どもに英語を教えることに関する授業等を受けたことがありますか。

ある ・ ない ・ わからない

⇒ 「ある」と答えた人は、授業名や内容をなるべく具体的に記入してください。

添付資料3：「ピリーフ調査」調査票

【自己分析：小学校での外国語授業に対する現時点での自分の考えを分析してみましょう。】

質 問	全くそう思わない そう思わない どちらでもない そう思う とてもそう思う
1. 小学校での外国語授業において、児童に英語を教えることは難しい。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
2. 小学校での外国語授業において、教師が良い発音で英語を話すことは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
3. 小学校での外国語授業において、児童に単語を覚えさせることは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
4. 小学校での外国語授業において、児童に文法を習得させることは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
5. 小学校での外国語授業において、児童が英語を日本語に訳すことができるようにすることは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
6. 小学校での外国語授業において、児童に繰り返して練習させることは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
7. 小学校での外国語授業において、児童に正しい英語を使わせることは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
8. 小学校での外国語授業において、コミュニケーションを重視した指導は最善の指導法である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
9. 小学校での外国語授業において、授業はなるべく英語で行われるべきである。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
10. 小学校での外国語授業において、児童と教師が英語でやり取りすることは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
11. 小学校での外国語授業において、教師の主たる仕事は児童に英語力を身につけさせることである。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
12. 小学校での外国語授業において、英語の言語構造などの知識は、英語を教えるのに役立つ。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
13. 小学校での外国語授業において、教師の高い英語力は最も大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
14. 小学校での外国語授業において、教師の人間性やコミュニケーション能力は英語力よりも大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
15. 小学校での外国語授業において、教材は教師より大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
16. 小学校での外国語授業において、教師は児童の英語使用者のモデルであるべきである。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
17. 小学校での外国語授業において、教師は児童の英語学習者のモデルであるべきである。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
18. 小学校での外国語授業において、児童と教師の良い人間関係は良い授業のカギである。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
19. 小学校での外国語授業において、英語圏の文化を扱うことは重要である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
20. 小学校での外国語授業について、十分な指導の知識と技能がある。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
21. 小学校での外国語授業について、現行の学習指導要領を理解している。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
22. 小学校での外国語授業において、評価を行うことは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
23. 小学校での外国語授業における評価方法を知っている。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
24. 小学校での外国語授業は、他の教科の学習とは異なる。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
25. 教員の主たる仕事は、児童・生徒の人間形成である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
26. 授業以外の児童・生徒とのコミュニケーションは重要である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
27. 自分以外の教師が行う授業を参観することは大切である。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
28. 同級生や仲間と授業や教材について日頃から話し合う機会をもっている。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
29. 次期学習指導要領における小学校での外国語授業の位置づけ（開始学年や時数など）を知っている。	1・・・2・・・3・・・4・・・5
30. 次期学習指導要領についての情報を、日頃から新聞やインターネットなどで入手している。	1・・・2・・・3・・・4・・・5

添付資料5：調査実施大学で発行している「児童英語教員養成課程修了証書」に必要な履修科目と単位数(平成28年/2016年度)

(別表) (○数字は必修)

区分	授業科目	単位数	最低修得単位数	開講時期及び週当たり時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎理論科目	児童英語入門	2	10			2						「児童英語入門」又は「外国語活動」のいずれかを2単位選択必修 2年前期(幼免・小免) 2年後期(中免・高免・栄免)
	英語文化圏論	2					2					
	異文化理解	2			2							
	英語の音声	2						2				
	外国語活動	2				2						
	教育心理学	2				2	2					
	児童言語	2						2				
児童心理学	2						2					
指導実践科目	児童英語教育法	④	8					4				
	児童英語指導法	④							4			
英語運用科目	英語学基礎演習Ⅰ	1	4	2								
	英語学基礎演習Ⅱ	1			2							
	TOEICⅠ	1				2						
	TOEICⅡ	1					2					
	International Communication StrategiesⅠ	1					2					
	International Communication StrategiesⅡ	1						2				
	International Communication	1							2			

	Strategies III											
	International Communication Strategies IV	1						2				
	英語ディスコース 研究	2						2				
	English in Popular Culture I	1					2		2			
	English in Popular Culture II	1						2			2	
関連科目	英 語 学 概 論	2			2							
	英 語 学 研 究	2				2						
	英 米 文 学 概 論	2			2							
	英 米 文 学 研 究	2				2						
実習科目	児 童 英 語 実 習	②	2								6	
	合 計		24									